

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(和田小)学校運営協議会長

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長から学校運営の基本方針についての説明があり、教育活動を概ね理解することができた。『目指す子どもの姿』を具現化するために、子供たちが納得できる体験をさせるなど粘り強く指導してほしいなどと熟議された。今後子供の姿から検証していきたい。
- 長引くコロナウイルスの影響で様々な変化を求められる中で課題も生まれている教育活動に対し、運営協議会が地域とのパイプ役を担うことや、協議会自体が実質的に協力していくことが大切だと感じた。委員同士は、もとより地元での顔見知りであったりするので、忌憚のない意見交換ができています。
- 本校の令和4年度学校運営構想の説明を受け、協議会として種々意見交換を実施してきたが、熟議とまでは至っていない。運営協議会制度発足1年目でもあり、委員としてどのように取り組むべきか深く理解しないまま協議が進められたという感がある。協議会を重ねるにつれ、次第に熟議できる雰囲気・素地が醸成されつつあるので、制度理念への理解をさらに深め、充実した熟議ができるよう努めていきたい。
- 次年度は、経営構想の具体的内容を協議会として議論する必要があると思うが、限られた時間の中での熟議に難しさを感じている。

＜評価項目2＞ 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 学校支援コーディネーターの提案で「生活科の昔あそび」等のボランティアを募り、実施した。地域ボランティアの人材集めについて熟議したこと、コーディネーターの尽力の成果だと思う。子供たちの喜ぶ顔や生き生きとした姿を目の当たりにして、このような活動を継続、拡充していくことが大切だと感じた。また、活動の方向性が見えてきたので、今後も子供たちの学びの充実に繋がるように取り組んでいきたい。
- 学校活動の手助けとなるよう地域ボランティア募集を積極的に進め、委員を介し、地域の会合や自治会の各種団体への働きかけなどを行うことができた。今後も学校からの課題提供に依っていけるよう運営協議会として協力していきたい。
- 保護者の学校評価アンケートには、学校運営に対する意見が散見している。地域との協議、学校との協議で解決できるものなどがあり、整理をして対策することが必要だと感じた。学校ボランティアの募集に留まらず、学校運営の他の課題についても改善に向け、運営協議会で熟議していきたい。

＜評価項目3＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 地域ボランティアの募集を継続していくことで地域住民がより身近に小学校を感じることに繋がる。自治会と連携して継続発展する施策を計画したい。また、これにより学校運営に関わる地域住民の広がりが期待でき、コミュニティ・スクール制度所期の目標達成の契機にもなる。このための方策として、PTAの人たちとの意見交換や先駆的な取り組みをしている小学校の運営協議会の見学なども有用だと考える。
- 子供たちが学校の外とつながれるように地域ボランティアや外部講師を活用したい。
- 令和4年度学校評価の中で、今後の課題として示された事項、例えば「外遊びが少ない」「登下校の安全確保に対する不安」等について、運営協議会としてどのような支援や役割を担うことができるか、協議の俎上に乗せていきたい。様々な問題に対して、熟議を通して学校と地域がスムーズに意思疎通を図れるよう運営協議会としての役割を果たしていきたい。
- コミュニティ・スクール制度がスタートしたことを「コミスクだより」や自治会役員会で伝えることで、地域の理解や協力がみられボランティア募集にも少しずつよい影響が出ているため、更に情報を発信して、周知に努めたい。